

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472601317	事業の開始年月日	平成12年12月1日
		指定年月日	平成12年12月1日
法人名	特定非営利活動法人 シオン相模原		
事業所名	グループホーム シオン相模原		
所在地	(2 2 9 - 1 1 3 7) 神奈川県相模原市二本松 4 - 8 - 7		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	9 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果 市町村受理日	平成22年2月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家の中で過ごすだけではなく、季節感・社会との繋がりをを感じる為に、外出機会を多く設けている。行き先についても利用者の声を聞くために利用者による『自治会議』を開催し、様々な場所を取り入れている。利用者同士の助け合いを援助しながら、利用と職員が助け合い、援助されるだけ・するだけの関係性ではなく、人間同士の繋がりを大切にしている。個々の能力に応じて『出来ること・出来ないこと』を見極めることから援助が始まり、当ホームでの基本姿勢となっている。運営推進会議を通して、不測の事態に協力していただける近隣住民の方々による『シオン協力会』の設立を一として、地域住民との活発な交流も始まっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成21年11月30日	評価機関 評価決定日	平成21年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴 ①平成12年12月開所のグループホームとしては歴史のあるホームである。JR橋本駅からバスで10分程度の便利な場所にあり、近くは住宅地と隣の工場に面していて近くに公園もある暮らしやすい環境にある。建物は高齢者集合住宅として建設されたので居室は広く、生活用として「シオン相模原」を設立し運営を開始した。建物の内部環境は工夫し、使いやすく、スペースを有効な活用を心がけ生活しやすい体制を整えている。ターミナル期のケアについては医療連携加算を受け、病院との連携体制の確立、ご家族との話し合いで「指針」を示して同意書を頂いている。近隣との関係については、運営推進会議を進めて行く中で、民生委員の方などが中心となり、ご近所の方が防災のためのシオン協会を作ってくれ、10名以上の方が緊急連絡網を作ってくれて、第1回の協会の会合はホールでホームの説明を中心に実施した。このような会合が更に地域の方々にグループホームや認知症、それにシオン相模原のことを知って頂く良い機会となり、益々地域との関係が深まっている。運営推進会議は自治会の副会長でもある民生委員の方が中心であり、自治会長さんもメンバーであるが多忙な場合は代行を努めて頂き、地域包括支援センターの方をオブザーバーとして参加頂く中でご家族、利用者本人、それにホーム関係者で進めている。 ②相模原市及び地域包括支援センターとの関係は良好であるが、相模原市の政令指定都市指定から近々分区分が為されるはずであり、年6回の運営推進会議の開催等、緩和措置も行う可能性の為に市やセンターとの協力が必要であり今後もご指導を頂けるよう努めて行きたい。 ③ケアについては個人別にプロフィール、ケアのポイント申し送りのポイントを記したアセスメントシートを活用し、日々その充実に努めカンファレンスを経て個人別ケアを介護計画に反映する体制が定着し、サイクルを回している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームシオン相模原
ユニット名	

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『入居者中心に考えます』の理念を掲げ、介護計画に反映する事により、職員間での共通認識となっている。	『入居者中心に考えます』の理念を掲げ地域の項目も盛り込み、介護計画に反映する事により、職員間での共通認識となっている。新入社員には入職時にこの理念に同意して、一緒にケアして行けるかどうかを確認するようにしている。今年度は特に地域との交流に力を注いで来た。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流を大切にしている。設立当初より自治会に加入し、自治会のイベントにも参加をしている。自主活動として、該当エリアのゴミ置き場の定期清掃を行なっている。	地域交流を大切にしている。設立当初より自治会に加入し、自治会のイベントにも参加をしている。自主活動として、該当エリアのゴミ置き場の定期清掃を行なっている。防災に関しては、シオン協力会が運営会議メンバーのご助力により、発足し、緊急連絡網も出来、地域と一体となった防災が出来る体制が備わった。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と共に外に出ることによって、近隣の方々への『認知症』についての理解を深めてもらっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に定期開催を行い。活動状況を開示し、意見をいただき、必要な協力を得ている。	今年度は隔月に定期開催を実施してきている。活動状況を開示し、意見をいただき、必要な協力を得ている。メンバーは自治会長、民生委員（自治会副会長）、ご家族、利用者本人とホーム関係者で地域包括支援センターの方がオブザーバーとして参加してくれている。テーマは活動報告、今後の予定を話しご意見を頂いている。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で挙げた問題点などを介護保険課に伝えている。生活支援課とは概ね月に1回、近況報告を行なっている。	運営推進会議で挙げた問題点などを介護保険課に伝えている。生活支援課とは概ね月に1回、近況報告を行なっている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要最低限の玄関施錠に努めている。身体拘束についての内容については、全職員の共通認識となっている。	必要最低限の玄関施錠に努めている。身体拘束についての内容については、全職員の共通認識となっており、職員会議でも折にふれ話合っている。現在、帰宅願望の強い人がいるので、ご家族の強い希望もあり施錠しているが、改善が見られたら、又開放したいと考えている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は全職員の共通認識となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見制度の学習会に参加して、必要なケースには活用できるように支援している。職員への研修は今後の検討課題。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	正式な入居申込書が提出される前に時間を掛けて、具体的な入居契約・解除・入居後の生活、支払い等の説明を行い、納得された方と契約を締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に暮らしぶりを伝える手紙や写真を送付し、意見を頂いている。現金出納帳は月に1回送付して確認してもらっている。運営推進会議に参加してもらい外部者との関係性を作れるようにしている。	家族に居宅担当及び管理者による暮らしぶりを伝える手紙や写真を送付し、意見を頂いている。現金出納帳は月に1回送付して確認してもらっている。運営推進会議に参加してもらい外部者との関係性を作れるようにしている。家族会はイベントと併設で行うように努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会ある毎に職員に接し、状況を把握している。提案などはすい上げ、職員間での共通認識を持ち、良好な運営につなげるように努めている。	基本的には職員会議で、その他は機会ある毎に職員に接し、状況を把握している。提案などはすい上げ、職員間での共通認識を持ち、良好な運営につなげるように努めている。個人的な問題などについては面接を行い聞くようにしている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況の把握に努め、時には必要に応じ意見交換をして、一人ひとりの職員のモチベーション向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合わせ適切な研修参加を実施した。また、職場内研修の実施に取り組み、現在、研修年間計画を検討中。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者施設の行事等への参加を呼びかけたり、同業者の当施設への行事参加も行った。ネットワーク作り、勉強会などは今後の課題である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期相談に付いては家族の協力により、利用者本人と話しをする機会を設け、直接、不安や要望を聞いている。利用後は職員で話しを聞くように努め、得た情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談から面談相談まで、随時に行なっている。家族が希望されるまで、回数制限などは設けていない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームへの入居が本人・家族にとって一番良いと思われる場合は入居を勧めるが、他のサービス利用が良いと判断される場合は、他サービスの案内を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯・調理等日常家事活動については利用者と共に行い、時には昔の方法を教えてもらっている。コミュニケーションを通じて、喜怒哀楽を共にし、学ぶことが出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画作成時に家族の意見をよく聞き、プランに入れ込むことにより『入居』で別々な生活を送る中でも本人を支える関係は継続していただいている。各職員も家族に日々の暮らしを伝える等、関係づくりを行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に本人・家族と話し合い、可能な限り、入居後も馴染みの人や場所との関係の継続が出来るように支援している。	入居前に本人・家族と話し合い、可能な限り、入居後も馴染みの人や場所との関係の継続が出来るように支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格、力量を把握し、個々の関係性や身体機能に考慮しながら家事活動等に参加してもらい、トラブル防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族から拒否がない限り、退去後も面会等に出向いて、継続した関係を築き、必要な場合の相談等を行なっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員間での情報交換により、把握に努め、必要時にはケアカンファレンスを行い、本人の意向を模索している。職員のばらつきに関しては検討課題である。	入所時にはアセスメントを行っており、アセスメントの内容はプロフィールケアのポイント、申し送りのポイントなどを確認し、その後も職員間での情報交換により、把握に努め、必要時にはケアカンファレンスを行い、本人の意向を模索している。職員のばらつきに関しては研修を強化することによりボトムアップを計って行きたい。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は必ず本人の住まいに出向いて、家族や関係者に同席してもらい、面接を実施している。居宅サービスを利用している場合は、担当ケアマネージャーからの情報も収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が情報収集を日々のケアの中で得て、共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申送り時等に随時、ケアカンファレンスを行い、変化に即した対応を行なっている。大きな変化がある場合は職員会議の議題として取り組んでいる。	アセスメントを中心としながら申送り時等に随時、ケアカンファレンスを行い、変化に即した対応を行なっている。大きな変化がある場合は職員会議の議題として取り組んでいる。これらモニタリングの結果は介護計画に反映している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には変化がある場合は細かく記載し、情報を共有化し、職員による『気づき』によって介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人・家族の要望は聞き入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特定の保育園や個々のボランティア・民生委員・近隣住民との係わりは出来ているが、消防・教育機関などとの協働は今後の検討課題である。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の疾病に応じた医師に診察をお願いする等、きめ細かな対応をしている。月1回の定期受診については内科・整形外科・精神科通院はホームで対応している。歯科医からは月に1回の訪問診療を受けている。	医療連携体制をとり、訪問看護ステーションの看護師を中心として、利用者の疾病に応じた医師に診察をお願いする等、きめ細かに対応をしている。月1回の定期受診については内科・整形外科・精神科通院はホームで対応している。歯科医からは月に1回の訪問診療を受けている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問を受けて、日常の健康相談・健康管理を行い、利用者の変化・服薬などのアドバイスをもらっている。緊急時の相談援助も24時間体制で受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も利用者・家族・病院関係者からの情報交換を行い、退院後の対応や相談等の連携にアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときの指針を作成し、同意書を得ている。具体的な事例が出来た時には、チームとしての計画を指針に沿って立てる。	重度化したときの指針を作成し、加算に関する同意書を得ている。具体的な終末期の事例が出来た時には、チームとしての具体的なアクション計画を指針に沿って立て実施するようにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成してあるが、全職員研修には至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時マニュアルは作成されているが、全職員研修は行っていない。地域には非常災害時に協力していただける『シオン協力会』が結成されている。各居室にヘルメットを備えてある。	火災時マニュアルは作成されている。全職員研修に努めている。地域には非常災害時に協力していただける『シオン協力会』が結成されている。各居室にヘルメットを備えてある。防災訓練を定期的実施している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者処遇についての研修を実施して、共有化している。全職員に対し、入職時に秘密保持誓約書を取り交わし、守秘義務について徹底している。	各利用者処遇についての研修を実施して、共有化している。全職員に対し、入職時に秘密保持誓約書を取り交わし、守秘義務について徹底している。職員会議でも折にふれて話し合うようにしている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出先は個々の希望を取り入れている。衣類着用時には衣類の選択が出来るような声かけ、食事時はバイキング形式や選択メニューも取り入れて、自己決定する支援を行なっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴時間は本人の希望を聞き、本人のペースに合わせる対応をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類交換の声かけや毎朝の整容の援助等、個々に合った支援を行なっている。利用・美容は要望がある場合、出張利用や美容院を利用している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好むメニューを取り入れて、食事作り、盛り付け、配膳、片づけまで、必ず職員と利用者が一緒に行なっている。食事時は利用者と職員と同じテーブルについて食べている。	グループホーム所期の目的である独自のメニューを利用者と一緒買い物をし、一緒に作ることを継続している。利用者の好むメニューを取り入れて、食事作り、盛り付け、配膳、片づけまで、必ず職員と利用者が一緒に行なっている。食事時は利用者と職員と同じテーブルについて食べている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を活用して支援している。かかりつけ医から各利用者の理想体重を出してもらい、体重増減などにすばやく対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者に合わせた口腔ケア・食後のうがいを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄表を作成し、排泄パターンを把握している。尿意・便意のある利用者に対して、必要以上の誘導を行なわないようにしている。	個別の排泄表を作成し、排泄パターンを把握している。パタンに沿ったケアを実施しているが、尿意・便意のある利用者に対して、必要以上の誘導を行なわないようにしている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の献立作成を心がけ、水分摂取を把握しつつ、日々のお散歩等の適度な運動にも工夫している。利用者によっては医師の処方による下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望により夜間入浴を実施している。日中の入浴者に対してもなるべく希望の時間を取り入れている。入浴拒否者にも職員間の連携で、不穏になることなく実施している。	自立の方は、希望により夜間入浴を実施している。日中の入浴者に対してもなるべく希望の時間を取り入れている。入浴拒否者にも職員間の連携で、不穏になることなく実施している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝リズムや体調を観察し、季節に合わせた温度調整・寝具・寝間着等こまめな調整を行なっている。リネン交換も定期的実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬説明書を全職員が閲覧できるようにしている。処方の変更がある場合は必ず申送り、周知に努めているが、確薬以外は職員間でのばらつきがある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般に於いて一人ひとりの力を活かした役割分担を実行している。絵や字の上手い人に作品を書いてもらったり、縫い物が得意な人には雑巾縫いや繕い物をお願いしている。嗜好品についても好みに対処している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	四季に応じた場所に外出できている。利用者自宅を訪問するなど状況に応じて実施している。近隣の方々の協力を得た外出は今後の検討課題である。	四季に応じた場所に遠出の外出を年2～3回は実施している。利用者自宅を訪問するなど状況に応じて実施している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じて個人所有の金銭を管理してもらっている。外出時では本人が支払えるように支援している。イベント時にはチケットを配布し、昼食や商品購入を体験している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室には電話回線を配置してある。本人の必要に応じて電話を掛けたり、手紙を出す援助を行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の中で調理等の家事を行い、音や匂いを感じてもらっている。季節に応じた室内の装飾を利用者と共に施したり、草花を活けている。外出時の写真等を掲示し楽しみの一つとなっている。	共有空間の中で調理等の家事を行い、音や匂いを感じてもらっている。季節に応じた室内の装飾（壁紙を作って掲示など）を利用者と共に施したり、草花を活けている。外出時の写真等を掲示し楽しみの一つとなっている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭にベンチを設置し、玄関にも椅子を配置して、自由にどこでも過せる環境づくりを図っている。マッサージチェアも配置し、自由に使ってもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れているものの使用をお願いしている。室内の温度調整をこまめに行い、掃除も職員と共に行ない、個々にあった居室作りを行なっている。	入居時に使い慣れているものの使用している。室内の温度調整をこまめに行い、掃除も職員と共に行ない、ここに合った居室作りを行なっている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレ・階段に手すりを設置している。エレベーターを設置し個々の身体状況によって使用を勧めている。廊下や床に障害物を置かないように常に気をつけている		

目 標 達 成 計 画

事業所 特定非営利活動法人
グループホーム
シオン相模原

作成日

平成21年11月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	急変時マニュアルの職員の周知・習得のばらつきがあること。	全職員が急変時マニュアルを理解し、均一に対応できるようになること。	全職員がマニュアルのロールプレイングを行い、急変時対応を習得する。	6ヶ月
2	35	非常時災害時のマニュアルに不備があること。	非常時災害時のマニュアルを正し、有効なマニュアルにすること。	マニュアルの不備を洗い出す。不備な点を活用出来るように新たなマニュアルを作成する。作成したマニュアルを活用して避難訓練等を定期的実施し、習得する。	6ヶ月
3	47	各利用者の服薬について、理解のばらつきがあること。	全職員間が各利用者の薬の効用・副作用などを理解し、ばらつきをなくすこと。	個々に利用者の服薬状況について学習する。その後、全体での勉強会を実施し、成果を発表しあう。	3ヶ月
4	38	日々のその人らしい暮らしへの援助の方法が徹底されていないこと。	利用者対応に職員都合ではなく、利用者中心に移行すること。	業務についての問題点を話し合い、利用者中心に援助が行われるように改善する。	3ヶ月
		急変時マニュアルの職員への周知・習得			

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。